

令和7年度 学校経営ビジョン

1 経営理念

「笑顔いっぱい めくもりのある学校 ～一人一人を大切にした 温かな関わりを通して～」

学校は「子供が学び、育つ場所」であると同時に、「教師が学び、育つ場所」でもある。「学び、育つ」ためには、一人一人にとって学校が安全で安心できる場所であってはいけない。

一人一人が大切にされ、温かな関わりを通して居場所ができれば、自ずと自信が生まれ、主体的に生き生きと協働しながら学んだり、自分の力を発揮して成長したりする姿があちこちで見られるであろう。一人一人の可能性を信じて伴走し、一人一人の可能性を最大限に引き出せる学校を目指していく。

2 教育目標

校訓	「正しく 明るく 優しく 豊かに 強く 大きく」
教育目標	「自ら学び 心豊かで たくましい 子の育成」

3 目指す姿

(1) 目指す児童像

- ①「自ら学ぶ子」(学びづくり)
- ②「自分も友達も大切にできる子」(心づくり)
- ③「健康で活力のある子」(体づくり)

(2) 目指す教師像

- ①児童に寄り添い、一人一人の可能性を引き出し、伸ばす教師
- ②常に挑戦し、指導改善に努め、子供と共に成長する教師
- ③目標に向かって、チームワークを大切にし、組織の一員として行動できる教師

(3) 目指す学校像

- ①一人一人の思いや考えが大切にされ、居場所がある学校
- ②子供も教師も自ら学び、他者との温かな関わりを通して、共に成長できる学校
- ③保護者や地域と連携・協働し、信頼される学校

4 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え 行動できる子(問題発見・解決能力の育成)」

- ①問題や課題を解決しようと、自分から考え、学びに向かおうとする姿が見られる。
- ②自分から相手のことを考えた思いやりのある言葉かけや行動をする姿が見られる。
- ③互いの良さや違いを認め、自分からみんなと一緒に生き生きと活動する姿が見られる。

5 重点目標と方策(★ 最重点取組)

(1) 授業力向上と確かな学力の育成

★①学校研究の充実により、授業力向上に努める。

- ・日常的に学び合う研究体制づくりを推進していく。

- ・外部講師を積極的に活用した授業研究や校内研究の推進で授業力を向上していく。
- ・ICT(1人1台端末)の効果的な活用や地域資源を活用した体験活動を授業に取り入れていく。
- ・若手教員育成のための日常的かつ定期的な校内研修を実施していく。

②基礎的・基本的な知識技能の定着と確かな学力の向上を図る。

- ・学力調査結果等を分析し、課題を把握するとともに、指導改善につなげていく。
- ・朝学習と補充学習の計画的な実施と個に応じた指導を充実していく。
- ・「家庭学習のてびき」を活用し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図っていく。

③読書活動の充実と習慣化を図る。

- ・授業での図書館活用や学校司書と連携した読書指導で、読書活動の充実を図っていく。
- ・地域ボランティア等による読み聞かせで、読書に対する関心を高めていく。

(2) 豊かな心と人間関係力の育成

★①生徒指導の4つの視点を生かした指導を教育活動全体で行う。

- ・丁寧かつ粘り強い指導で基本的な生活習慣を確立させ、安全・安心な風土の醸成で、いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応を行っていく。
- ・タイミングを逃さない「認め、褒め、励ます」指導で、自己存在感や自己有用感を育んでいく。
- ・授業や縦割り活動、行事等で自己決定の場を与えたり、互いの良さや違いを認め合ったりする活動を通して、温かな人間関係を育んでいく。

②道徳教育の充実に努める。

- ・考え、議論する道徳の授業を推進していく。
- ・授業や全教育活動を通して、重点「親切・思いやり」の育成を図っていく。

③特別支援教育の充実に努める。

- ・校内委員会や校内研修の充実で、関わり方や支援・指導力を向上させていく。
- ・特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築し、専門機関等との連携推進で、適切な支援策を講じていく。

(3) 体力向上と健康・安全教育の充実

①1校1プランをもとに体力向上に努める。

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果に基づいた重点的な指導を行っていく。
- ・水泳や持久走、縄跳び等の旬間の取組を工夫し、粘り強く最後までやり遂げる力を身に付けていく。
- ・「スポチャレいしかわ」に積極的に取り組んでいく。

②縦割り活動を通して活力向上を図る。

- ・朝掃除や児童会活動、行事等に縦割り活動を取り入れ、自分からみんなと一緒に生き生きと活動できるような内容を企画・運営していく。

③命の大切さにつながる健康・安全教育を推進する。

- ・心身の健康や食について、発達段階に応じて養護教諭や栄養教諭と連携して、指導を行っていく。
- ・学校安全計画に基づいた安全教育や校内研修を計画的に実施し、防災意識と対応力を向上させていく。

(4) チーム学校・チーム担任制の取組による組織力の向上

★①組織の一員であるという自覚を高め、共通理解・共通実践を進める。

- ・コミュニケーションの活性化と「報告・連絡・相談」の徹底でビジョンを浸透させていく。
- ②一人一人の子供を複数の教員で指導・支援する体制を整えていく。**
 - ・柔軟な発想でチーム担任制を取り入れ、指導力の向上を促すとともに、働き方改革にもつなげていく。

(5) 家庭・地域等との連携

①コミュニティ・スクールを推進し、地域との連携・協働を図る。

- ・地域の人的・物的資源を活用し、白山手取川ジオパーク教育を充実させていく。

②教育活動の積極的な公開と情報の発信に努める。

- ・学校行事や授業参観、親子活動等を PTA と連携して行っていく。
- ・各種お便りや HP の内容を充実させていく。

③幼保小・小中の連携を推進する。

- ・相互授業参観や体験交流等を通して、教職員間で情報や取組の共有化を図っていく。
- ・スタートカリキュラムの実施により、円滑な幼保小の接続を行っていく。